

茨城県かすみがうら市（国内4例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和4年11月4日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は標高 25m ほどの台地上に位置している。鶏舎の北側には2つのため池があり開けているが、南側は針葉樹の植林地や広葉樹といった樹高の高い林に囲まれていた。農場の周辺は平坦で畑などの耕作地が広がっていた。
- ② 調査時には、農場敷地内のため池でコガモ 120 羽を確認した。また、農場から 3.3km 離れたため池では、ヒドリガモ 169 羽、マガモ 117 羽等を確認した。
- ③ 当該農場はウインドレス鶏舎 12 棟からなり、発生時は空舎の 1 棟を除き、1 鶏舎当たり 8～10 万羽の採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 農場によると、発生鶏舎（通報時 292 日齢）では 10 月 30 日までは 1 日当たりの死亡数は 10 羽～35 羽程度であったとのこと。31 日に 43 羽の死亡があり、その一部が鶏舎内に偏って確認されたため、解剖を行ったところ、十二指腸の腫脹が認められたことからクロストリジウム症を疑い、系列会社の管理獣医師の指導により整腸剤の投与を始めたとのこと。同じ場所を中心に、11 月 1 日に 47 羽、2 日に 98 羽の死亡が確認され、3 日に死亡羽数が増加していることから家畜保健衛生所に死亡羽数増加を通報するとともに、病性鑑定を依頼したとのこと。家畜保健衛生所への通報時には、既に管理獣医師が発生鶏舎の死亡鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施して陽性を確認していたとのこと。
- ② 発生鶏舎は農場の西側に位置していた。農場によると、死亡鶏は入口から見て鶏舎後方 1/4 辺りから同心円状に認められたとのこと。
- ③ 調査時には、発生鶏舎後方から 1/4 辺りで死亡鶏が散在していた。また、隣接する鶏舎においても固まって死亡鶏が認められた。

3 管理人及び従業員

- ① 農場によると、当該農場では 58 名の専属の従業員のうち 30 名が鶏舎管理を担当していたとのこと。飼養管理者は鶏舎ごとに担当者を決めているが、状況により担当の鶏舎以外の作業を実施することもあるとのこと。その場合は鶏舎ごとに専用の防護服に着替え、交差汚染しないよう対策していたとのこと。
- ② 鶏舎管理以外の 28 名は、集卵作業、鶏糞・堆肥処理等に従事しており、鶏舎管理との行き来はなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場によると、従業員が衛生管理区域に入る際は、農場外の更衣室で農場専用の作業着に着替え、隣接する事務所までスノコ上を移動し、事務所の衛生管理区域側の出口で手指消毒、手袋の着用、農場専用の長靴の着用を実施しているとのこと。
- ② 車両で農場に立ち入る外来者は、農場に入る前、ゲート横のプレハブで農場内専用の作業着及び長靴を着用し、手指消毒後に手袋を着用しているとのこと。その際、車内足元には農場内専用のビニールを敷いているとのこと。
- ③ 車両が農場に入る際は、農場入口に設置された消毒ゲートで車両消毒を実施しているとのこと。
- ④ 従業員及び外来者が各鶏舎に入る際は、靴底消毒後に前室で鶏舎専用の防護服を上から着用するとともに靴を履き替え、手指消毒後に手袋を着用しているとのこと。

作業後は入場と逆の手順で退出し、防護服は1日の作業終了時に捨てているとのこと。

- ⑤ 鶏舎周りの消石灰は少なくとも週に1回散布し、雨の後は迅速に散布しているとのこと。
- ⑥ 鶏舎は、屋根に金網が張られたスリット状の吸気口があり、屋根裏に設置されたファンにより外気を引き込んで吸気を行っている。排気は段違いの鶏舎側面の壁から行われ、外部は防鳥ネットが隙間なく張られていた。また、排水溝が鶏舎内から鶏舎外に設置されていたが、鶏舎内のねじ付きの蓋を開けないと排水できず、常時閉まっているとのこと。
- ⑦ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、全ての鶏舎で鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っていた。
- ⑧ 飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、消毒を実施した上で鶏舎内に自動給水されていたとのこと。
- ⑨ 通常、オールアウト後は鶏舎内の除糞と清掃・消毒を行い、その後の空舎期間を2～3週間程度設けていたとのこと。
- ⑩ 鶏糞はベルトコンベアで鶏舎から敷地内のコンポストに運ばれて処理されるとのこと。一部の生糞、一次発酵産物は、系列会社の堆肥処理施設に搬出して処理しているとのこと。
- ⑪ 死亡鶏は毎日の健康観察時に回収し、鶏舎担当者が農場内の冷蔵コンテナに搬入して保管しており、業者が週1回収りにきているとのこと。
- ⑫ 重機や器材などの他農場との共用は行っていないとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場内では野生動物はほとんど見かけず、野鳥ではカラスを見るほか、ネコを見るとのこと。調査時には、鶏舎間の空き地の地面を歩くハクセキレイや上空を通過するハシブトガラスなどの鳥類を見かけた。農場敷地内で小型哺乳類のものと思われる糞が確認された。
- ② 鶏舎内では時折ネズミを見かけるため、殺鼠剤、粘着シート、捕獲かごを設置しており、調査時には発生鶏舎内で捕獲かご内にネズミがいることを確認した。また、鶏舎内ではネズミの糞や水道管の断熱保護材の齧り痕等のラットサインが認められた。

(以上)